藩士見聞志

へ遠13
2475
74

へ13
2475
74

孫舎見聞雜録巻之四

目録

一 孫舎人軍敗后ら[illegible]詩生事
一 敵徒之軍来下向乃事
一 古馬[illegible]形義又子生害乃事
一 [illegible]法前司辛去乃事
一 孫舎人大仏貴造立乃事

斧磯榮

孫倉見聞志巻之四

孫倉将軍家

[illegible]事

[illegible]の冠右後[illegible]

[illegible]大臣実朝[illegible]

[illegible]

小[illegible]倉中[illegible]

[illegible]
世中の河内国の出来
[illegible]上下の所
[illegible]加茂川
東西に参詣
次に裸参り
[illegible]山門といふ
[illegible]

[illegible]二月二日乃中の刻に
東西に参り
仙洞乃清所へ参り大きに
驚き思ひ軍乃中いふ
も静謐乃斗成ぬ
[illegible]二位禅尼の許
[illegible]

治中治乱ハ治ル
に大事ハ将軍実朝公滅亡
しかく天下暗くなりし
こと何ぞ突然に奪ひ
ち強人弛遠ハ仙洞
有無ハ謀結ハ潮く

結ぶ事ハ
二位禅尼義時
禅定院集会
大将ハ
変死事も計ガ
大将城中ハ世乃辞
ら奪ハ禅定院

禪尼乃宮ハ故右大臣頼
朝公乃姉君ニ御中納言の御縁に
乃妻宮ニ而ハ腹ニ息女
一人ハ先例後京極摂政兼乃
良經ニの又の政所ニ
乃冨白内大臣道家公と結婚
結ハ故右大将頼朝の法一族ニ

事ニ而好成ハ道家ニの如乃
政所ニ而ハ冨大政大臣茂家の
又縁之の姫准三后従一位論子と
申ハ腹ニ男息ハ一人ハ何も
幼ニ而ハ頼経ハ中ハ将軍に
居ニ而ハ南家ニ而ハ和州
ハ北家ニ而ハ世家ハ

しるす日二月十三日 信濃国住人
仙使右京亮 宿老 乃武蔵人連名
乃奏状と仙洞乃清書
叡慮と京都乃仮名
さしがしらの算入事 御賀
当家家門 射光 武蔵国歌 入
道と京都の護 屋事

さに故右大将家 御之清金
殊 令成 阿闍梨 禅坊
号 出家 おハ 屋
不 逢仏 金 不 聖 国 ハ
落命せ 其子 阿闍梨 冠者 光
深 の家 家 ハ 居
ハ 仏 世 出 や

と申事ハ無之候乃様ハ
まてゝ下郷へつゝ
も成ゆへ
居給ひ事ハ
又討ハ給ひ
朝の中ハ
まてゝ家来乃
外ハ
将軍実朝
和泉守
討ハ世成
ひかりの三郎国の
まゝ後藤乃
山中小城郭
成ハ近陸成
とうゝ流宜成
騎と流ひ事成
護代井事成
後藤乃
寺
花御とも

[illegible]と二位禅尼と
軍[illegible]合戦を清厨[illegible]親
と大将[illegible]人と後[illegible]の
国[illegible]を[illegible]皆二百
廿三日雲霞の如く[illegible]加[illegible]く
[illegible]の[illegible]集り[illegible]
[illegible]

[illegible]一軍[illegible]及び[illegible]先[illegible]
[illegible]失[illegible]残る[illegible]七八人
[illegible]大将
阿[illegible]の冠者[illegible]先[illegible]
[illegible]
[illegible]死[illegible]
[illegible]早く[illegible]滅
[illegible]天命[illegible]内[illegible]の[illegible]

内裏国天乃威成ふるまひども
事幼き人の引只能変成同じ
内と侍り和泉成まさ様一内光
義義用乃金ふりみよりく多年
乃思編成一内くあひ先ふこと
てまつる

新羅工匠軍来不向の事

去年壬二月十日二位禅尼の
使ふ来朝る年乃内裏と
一所隔絶と以辛ふ将軍出
使遣ひ新上洛を相示建保
七年京都舎人種ぐの災変有
小月ふ二月十二日改元ひ建久
元年ふ改元同年六月二日将軍

羅城門に向かひ宣旨の
まゝいそぎ発ち給へ
月七月九日一條乃亭より六波羅に
渡御遷幸遷御十九日
御乃に弟 御 家大夫
宮内の大蔵の亭へ入御行
列乃次第 厳重 先ハ
女房達 各〻 雲鬢 雅仕
人乳母 武人 局 一條乃局
右馬 警局 出 御 の 小 方
何も 死 とかゞ
乃 随 三浦 出立 先陣
家 厨 天 陸 家 厨 同 次
武田 命 従 人 次 三浦

左馬の尉後藤兵衛尉菊西右衛門
始めて参る人々指貫
浅葱の直垂の袴
清経の中将次郎
清房右馬の助
小野の盛人
新兵衛大夫
保延の後藤乃清
右馬亮
後藤兵衛尉
中務右馬の尉
押領使
海ふかり
通
見
及び
乃
道
方
ゆ
重
中

及ぶ氏賢人なり中間氏警うと申

古屋左衛門義又子生害乃事

同廿九日伊賀古市屋敷へ附先手光御

城より御手懸に岩まつの大門

乃屋敷へ古屋左衛門義二注入

道源の新政乃赤源 仙洞の敵

寄り岩まつ宮軍とし

申 照湯乃位置 押寄る義

門城さし 岩まつ等城と陽ざ

鶴人伴新兵衛の者ども 古近左衛

茂近仲兵衛尉源の宗実刑部出

平新国 岩城守 義

加賀 仁寿殿 義

小遣ニ銭ふミの多く麻代薪ニて
責られ候こと川退く多後の人々
算用も取らしくし地走り一日一枚
責銭ふ利銭ハこの上ふ高利代まて
一銭も手置数銭ハまかせ大穂
こ之候さまか身心前まて注敏小火
とかけかの々自害しまて郭内

敷金しり煙りかけてかへ風りかへり
乃吹らし黒煙りしかり焼
揚りの人多り集りく来諸ま
中にて親平门神穂宮外記の穂
琥湯齋墨韓神寫ハ法華捨り
しかり仁寿敏て焼崩き同中
小安直せしまて観世音の蓄像て

慈神五宝の伊勢真名大堂舎
卯酉乃新人方三代乃伊勢皮舎
竹まと灵物のごとく灰塵となり
法進まとハ人くと光と軍事
禁中ハ軍と敵用くと血戦
竹もしまち稲まと乃主ふと乃頭
ごふ寄惜乃石男浅いと夜只事

小竹ごとし昌まと只ハ人ハちうう
伝流乃前司辛去乃事
茨城舎失火乃事
附大佛造立乃夏
同八月六日伊賀太郎厨光家戦
没西乃執事に猶甘ら伝流
前司乃光病絶危ふくし事

山城と摂津とまたがる淀川の堤
また同八月洪水流原洪水年年
六歳ゝ続く辛苦せしこと多
世間ゝ広く廉売ゝ洪水に
一般の風ゝ金を得ときこ米価の
年代先ひさま泉水の水減ゝ
代情まぬ人ゝ多ゝまた同月十日
申乃刻ゝ阿蘇国西ゝ淀乃敷が
火元出来ゝ南風ゝげしく
ゝ車輪乃ゝ海ゝ乃ゝ
で永福寺乃鳥門の下ゝ淀表乃
出雲乃前代東乃方ゝ焼為紙や
山乃湯ゝ西ゝ天大阪と
隔ゝ代乃刻を三時乃間ゝ焼

ちりかゝ人部法大分乃中れ[illegible]
く燒失ち也地下四人部く資紙
代永のけ雜物代ちよび雅ちを抱
ち也ちかゝ代助人ちし[illegible]ち
ち火乃形ち風ち[illegible]ち
ちも[illegible]ち燒のち[illegible]ち
燒ちから少く端ち[illegible]れ或ひち

ちに穩ちて所ち[illegible]ち物
ち[illegible]ち死ちかの數を知ちて注さ
ちび声同も坊中ちまち有ち
故右大將頼朝卿平創ち[illegible]死
ちかゝ戸ちわ踏ち滿ち事
業ち孔せ[illegible]ち如ち[illegible]ち
故右大臣の四姉ち二品禪尼の注

宮と為て乃五鈴を懸ぶ為に陽燈氏
遊を為て清原明寺法之
勅手中に叶て不日に勅願有
御ことに綸旨を下し給ふ
きく燒失の源氏物語大部
とをじ元氏部に紅葉
しらめじ世も没まうす性善なも

編ひまなく同十二月廿日二品禪尼
清不例のよし見ふ編て法勝寺の
清房に大山府君乃為に祈請
同廿七日故右大臣宗盛の五一周忌
ありて遍福乃為に佛師定慶法師
ふ作ありて大仏造立勝長
壽院の燒て伽藍を建らる大佛

言葉を為付て和尚五大尚と奉唱者
ら是今日僧者といふ事なり二品禅
尼乃頼と云事導師を眼禅法師
なり呪願説法読人乃耳目と如
なり紙表の四方錦を西
其乃如来説僧者の新手紙
是なり法華経乃中

なり説事なり此の功どくを
奥太ひろく結佛乃妙徳
是なり法華経皆人ひろく
事世法類なりいろ

強倉見聞志四編巻三四終